

MCC雑感2007-2

於丸紅本社ビル 一階個室コンチェルト

出席： 13名

VISTAの販売開始

1月31日6年ぶりのウィンドウズOS, VISTAの販売が開始された。

これに因んで今回は「OSについて語る」こととした。

下記の項目について約1時間の講話であった。

*OSとは何か

*OSの目的

*OSの機能

プロセス管理

メモリー管理

ファイルシステム

ネットワーク

セキュリティ

グラフィカルユーザーインターフェース (GUI)

デバイスドライバ

*OSの歴史

(ウィンドウズの足跡)

年	OSの変遷	OS特記事項	備考
1975			マイクロソフト設立
1976			
1977			

1978				
1979				
1980				
1981	MS-DOS V1		16bitOS、初のパソコン	
1982				
1983				
1984				IBM PC・ATの誕生
1985	Win 1		GUI、マウスの採用	
1986				
1987	Win 2		マルチウィンドウの採用	
1988				
1989				
1990	Win 3.0		マルチタスク、プロMgr, ファイルMgr	
1991				
1992	Win 3.1		マルチメディア強化	
1993		Win NT	32bitOS	
1994				
1995	Win 95		スタートメニュー、IE-1	
1996		NT v4		
1997				
1998	Win 98		USB、IE-5	
1999	(Second Edition)			
2000	Win Me	Win2000	ムービーメーカー	
2001				
2002	Win XP			
2003			メディアプレーヤー	
2004				
2005			SP-2	
2006				
2007	Win VISTA		IE-7	

*VISTAの意味

簡単な紹介

Vistaの製品構成 と主な機能の違い					
	Home Basic	Home Premium	Business	Enterprise	Ultimate
パッケージ製品の販売	○	○	×	○	○
パッケージ実勢価格	¥27,000	¥31,500	¥40,000	×	¥51,500
アップグレード実勢価格	¥14,500	¥21,000	¥27,000	×	¥33,500
Aero	×	○	○	○	○
多言語対応	×	×	×	○	○
強化された検索機能	○	○	○	○	○
保護者による制限	○	○	×	×	○
暗号化ファイルシステム	×	×	○	○	○
双方向監視ファイアウォール	○	○	○	○	○
リモートデスクトップ機能	△	△	○	○	○
デバイスドライバー使用制限	×	×	○	○	○
ファイルのスケジュールバックアップ	×	○	○	○	○
ウィンドウズのシャドーコピー	×	×	○	○	○
システムのイメージバックアップ	×	×	○	○	○
DVDメーカー	×	○	×	×	○
ムービーメーカー	△	○	×	×	○
Media Center Extender対応	×	○	×	×	○
メディアアセンダー	×	○	×	×	○
Tablet PC	×	○	○	○	○
モビリティセンター	△	△	○	○	○
Side showへの対応	×	○	○	○	○

恐らくは我々の対象となるのは、Home Premiumということになる
だろうと思われる。

*VISTA不人気の理由

現在では我々もそうなのだが、世界中のパソコンはマイクロソフト社のウィンドウズ一色という感があり、事実世界の90%以上をウィンドウズが占めていると云われているが、世の中には対抗馬としてのマッキントッシュやフリーソフトであるUNIXなどもあり、パソコンに達者な人はウィンドウズを好まないという人が多い。

しかしながら、ここまで寡占・独占状態が続いてしまうと、アプリケーション・ソフトにせよ、周辺機器にせよウィンドウズ一色なのであるから、叛旗を翻しても自分が不便になるだけである。

2007年1月31日ウィンドウズの新しいバージョンであるVISTAの発売が開始された。しかし市場は今ひとつ盛り上がりを見せず、6年ぶりの新バージョンとしては拍子抜けの感がある。

何故だろうか？

1995年にウィンドウズ95が発売された時は、世界中が熱狂的にこれを迎えてパソコン人口は一挙にそれまでの数十倍に達したのだが、それには95の優れた且つ極めて斬新な特徴がはっきりしており、世の中の人々はそれまで別世界のものと思っていたパソコンに手が出るようになったのだ。

またWin95の際立った特徴は沢山あったが、最も特筆すべきメリットはインターネット接続が著しく改善され、世界中がインターネットの恩恵に浴したことだろう。

- 1) ロングファイルネームの採用
- 2) マルチタスクの進化
- 3) ユーザーインターフェースの強化
- 4) プラグ&プレイ
- 5) マルチメディアの強化
- 6) ネットワーク機能の充実

2001年に現れたWinXPはWin9×系の悩みであったフリーズ現象、リソースの不足を解消したという点で画期的だった。

これに比較してVISTAの重要な強化点・特徴は何なんだろうか？

マイクロソフトが挙げているのは下記の 3 点である。(以下マイクロソフトの説明は以下の通り)

- 1) ユーザーインターフェースの刷新
- 2) 検索機能の充実
- 3) セキュリティの向上

一つ目のユーザーインターフェースの刷新は、ユーザーの使い勝手の向上を狙ったものです。Windows は機能面でかなり成熟してきましたが、誰もが迷わず快適に使えるようにするには、やるべきことがまだまだあります。Vista では、半透明のウインドウ枠 (所謂アエロ) やウインドウの 3 次元表示など、XP とは大きく異なるユーザーインターフェースを取り入れています。

2 つ目の検索機能は、ハードディスクに膨大なファイルがたまり、必要なものがすぐに取り出せないという不満を解消するためのものです。Vista には、強力な検索機能が追加されています。Windows XP のように、フォルダーの階層をたどって目的のファイルやアプリケーションを探す必要がなくなります。

3 つ目のセキュリティの向上は、今日では避けて通れない問題です。Vista には、重要なソフトウェアの実行に制限を加えたり、悪意のあるソフトウェアを検知する機能などが盛り込まれています。

つまり画期的なものは何一つ無いのではないだろうか???

これでは 95 の時のような新しいパソコン人口を爆発的に伸ばすような効果は期待出来ないし、XP のような大きな買換え需要を喚起することすら難しいと云わざるを得ないではないか!!??

更に考えてみると、爆発的な Win 95 ~ XP での 10 年間、毎年 1200 万台という売り上げを誇って来た IT 業界には、ある種の飽和状態が現出しており、ハードウェア的には寿命が来ていないし、日常的な使用には充分耐えるパソコンをわざわざ買い換えねばならないというニーズが欠如しているとも云える。ここにはハードウェアの進化により機械の耐用年数が延びているというユーザーにとっては嬉しいがマイクロソフトにとっては矛盾する進化がある。マニアックな或いは仕事上高度なワープロ・計算機能を追及する人々を除けば、ユーザーの大部分は XP でフリーズから解放され、大容量ハードディスクで安定的な操作が確保されていれば、それ以上のものを求めはしないのではないか。

そして、VISTAはこのような大衆に買換えの意欲を起させるに十分な魅力を持っていないのである。

更にVISTA発売に際してマイクロソフトの不人気を煽った事件の一つは同社がXPのサポート期間を後2年と発表したことだった。

このことは世界中で大きな反感を齎し、特に日本で非難の声が高く上がった為VISTA販売開始直前の1月25日、マイクロソフトは前言を撤回して、Windows XP Home Editionのサポートを2009年4月で終了するとしていたのを改めて、Windows XP Home Editionに対しても、Windows XP Professionalと同様に2014年4月まで「延長サポート」を提供し、セキュリティ修正プログラムを無償で提供することとせざるを得なくなったのだ。

私のパソコン歴は僅か10年、これまでの95-98-XPという買換えは平均3年毎であったのだが、XPでは既に4年4ヶ月を経て居る。

これだけ待たされた挙句のVISTA、開発名Longhornに対する期待が大きかっただけに、私は即座には飛びつけないというのが実感である。

以上/

註記： 当日は舌足らずにVISTA体験ツアーの話もしましたが、これは雑誌やインターネットの受け売りに過ぎず、矢野さんのベータ版実体験に基づく補足もして頂いたのですが、雑感には割愛させていただきます。